

JA全農 WEEKLY

6
7
面

JAアクセラレーター第4期成果発表会 スタートアップ企業9社 伴走者の支援で実用化進む(経営企画部)

2面

全農パールライスとJAパールライン福島の
パールライス事業が統合(米穀部)



みのるダイニング名古屋店のグリル料理やドリンク、フルーツパフェの一例(8面)



リサイクル可能なシール台紙を使用したマト用ラベル(4面)



成果を発表した9社の代表と伴走者ら(6-7面)

2 「バンカーシート」に
農林水産技術会議会長賞(耕種資材部)

3 いばらきコープと3年ぶりに
「どきどき収穫祭」(茨城県本部)
「第5回全国高校eスポーツ選手権」に
初協賛(広報・調査部)
「JAグループ担い手アグリサミット」を
開催(広島県本部)

4 リサイクル可能なシールラベル台紙を
試験導入(岐阜県本部)
『今日からはじめる農家の
事業承継』発売(広報・調査部)

5 JAズームイン(JA京都・京都)

8 「みのるダイニング名古屋店」がオープン
(フードマーケット事業部)

AKB48チーム8メンバーの
「きりたんぽ」作りを配信
(全農東北プロジェクト、フードマーケット事業部)

JAタウンショップ紹介
みかんの里「JAありだ」

Web版JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

Web
限定

「フードバンクあきた」へ
秋田県産食材を贈呈(秋田県本部)

東海学院大学×マックスバリュ東海(株)
コラボ弁当発売(岐阜県本部)

News!

「バンカーシート」に農林水産技術会議会長賞

天敵保護資材の開発・普及で農林水産研究開発功績者表彰

耕種資材部

全農が取り扱う天敵保護資材「バンカーシート」の開発・普及に関する取り組みが、農林水産省と（公社）農林水産・食品産業技術振興協会が実施する2022年度民間部門「農林水産研究開発功績者表彰」で、優れた功績を挙げたとして農林水産技術会議会長賞を受賞し表彰されました。

ハダニやアザミウマなどの微小害虫類は薬剤抵抗性を発達させやすいため、化学合成農薬に依存しない総合的病害虫管理の確立が求められています。中核技術として天敵利用が期待されますが、天敵の放飼タイミングの難しさや経費面の負担

が課題となっています。

「バンカーシート」は、天敵（スワルスキーカブリダニ、ミヤコカブリダニのバツク製剤）と組み合わせることで利用し、天敵の増殖に適した環境を提供する技術です。このことにより、天敵の使いやすさが向上し、天敵を利用した防除体系の導入が容易になったことが評価されました。



イチゴ高設栽培での「バンカーシート」の利用

17年から販売を開始した同商品は、施設野菜・果樹（キュウリ、ナス、イチゴ、ミカン、ブドウ、マンゴーなどの）栽培で普及が進んでいます。全農はこれからも、天敵利用の普及を通じて持続可能な食料システム構築に貢献していきます。

News!

全農パールライスとJAパールライン福島のパールライス事業が統合

事業強化で生産者所得の向上と営農の安定に貢献

米穀部

全農パールライス（株）とJAパールライン福島（株）のパールライス事業は12月1日に統合しました。

全農パールライスは、県域パールライス事業との統合を進め、現在、15都府県を事業拠点として展開する広域精米販売会社です。

JAパールライン福島は福島県内を中心に県産米精

米販売などの事業を行ってきましたが、今回の事業統合により、全農パールライスの有する営業・製造のノウハウを融合し、県内外での福島県産米精米販売などの拡大および製造・物流の

効率化を実現します。

全農パールライスは、東北地区で初の事業拠点を持つこととなり、これを足掛かりに、広域展開する取引先への東北エリア対応を強化します。

米穀部は、精米販売市場でのパールライス事業の競争力強化に向け、県域パールライス卸の再編を進めていくことにより、生産者所得の向上と営農の安定に貢献することを目指します。



左からJAパールライン福島の佐藤社長と全農パールライスの中野社長



全農パールライス初の東北地区事業拠点となる福島支店（旧JAパールライン福島（株）のパールライス事業部）

いばらきコープと3年ぶりに「どきどき収穫祭」

ポケットファームどきどき茨城町店に特設会場

茨城県本部

茨城県本部は、いばらきコープ生活協同組合と共催で「どきどき収穫祭2022」を開催しました。二つの協同組合が手を取り合い、食と農への理解を深め応援しあうため、2015年度から開いていましたが、20年度以降コロナ禍により自粛しており、3年ぶりの実施でした。

「ポケットファームどきどき茨城町店」の敷地内に特設会場を設け、①どきどき生産者のトラック市②「Aコープ」「ニッポンエール」商品のPR・販売コーナー③カゴメ株の「ベジチェック」野菜摂取量簡易測定コーナー④いばらきコープ「SDGsクイズラリー」、「コープデリ」案内コーナー——などを実施しました。

トラック市では、16台の軽トラックと22人の生産者が出店しました。新鮮な野菜、みそ、揚げ餅、おこわ、焼き栗などが並び、多くの来場者でにぎわいました。

生産者自慢の野菜や加工品が並び、にぎわう会場



「第5回全国高校eスポーツ選手権」に初協賛

めざせeスポーツの高校日本一

広報・調査部

全農は、(一社)全国高等学校eスポーツ連盟と(株)毎日新聞社が主催する「第5回全国高校eスポーツ選手権」に協賛します。全農がeスポーツの大会に協賛するのは、今回が初めてとなります。

全農は、これまでに卓球やカールリングの大会協賛などを通じてeスポーツ支援を行ってきましたが、日本の新しい文化として発展しつつあるeスポーツでも優勝を目指す高校生を応援したいという思いから「全国高校eスポーツ選手権」へ協賛することとしました。

eスポーツとは「エレクトロニック・スポーツ」の略で、競技性の高いテレビゲームやパソコンゲーム、スマートフォンゲームなどをを用いて電子上で行われる対戦競技のことです。今大会ではエンタリーした全チームに全農の商品ブランド「ニッポンエール」のグミを提供します。

第5回全国高校eスポーツ選手権のロゴ



【日程】予選大会：11月19日(土)～12月25日(日)
決勝大会：2023年1月29日(日)、2月11日(土)、12日(日)

大会詳細
こちら



「JAグループ担い手アグリサミット」を開催

担い手やJA、行政関係者、学生らに最新の省力化技術を紹介

広島県本部

広島県本部は、中四国広域営農資材事業所と連携し「食と農を未来につなぐ」をテーマに10月26、27日に「JAグループ担い手アグリサミット」を開催しました。

中四国地方の担い手やJA、行政機関、広島県内の農業高校・農業技術大学の学生を中心に、2日間で約1100人が来場しました。実演会では、代かきを同時に行う無コーティング種子直播^{ちやくは}、ラジコン草刈り機、ドローンによる防除などの省力化技術を紹介しました。

展示ブースでは、スマート機器の体験、肥料農薬や生産資材の展示、耕畜連携の紹介、相談会などを行いました。営農資材部の豊田勝司部長は「今後も生産者の声に耳を傾け、所得向上につながる情報や技術を積極的に提案していく」と意気込みを語りました。



トラクターを使用した省力化技術の実演

アグリサミットのHPはこちら



リサイクル可能なシールラベル台紙を試験導入

資源循環プロジェクトに参画 トマト選果場で量産化探る

岐阜県本部



リサイクル可能なシール台紙を使用したトマト用ラベル(上)



ラベルを貼り付けたトマトの出荷箱

導入は、全農西日本営農資材事業所と日榮新化(株)が連携して取り組む資源循環プロジェクトに参画したことから始まりました。同プロジェクトは、循環経済への流れが世界的に加速化する中、国内企業を含めた幅広い関係者の理解醸成と取り組みの促進をめざして、官民連携が進めます。

トマト選果場で使用するシールラベルの台紙をリサイクル可能な材質に変更することで、これまでほとんど再利用されずに焼却されていた台紙が回収後に再び商品原料に使用され、廃棄物削減と二酸化炭素削減が可能になります。昨シーズンから検討を重ね、今シーズンから試験的に導入しました。

岐阜県本部は10月下旬から、JAにしみの海津集出荷センター海津トマト部会と共同で、トマトの等階級を識別するために選果場で使用されるシールラベルの台紙をリサイクル可能な材質に変更し、試験的に導入を開始しました。

「今日からはじめる農家の事業承継2万人の跡継ぎと考えた成功メソッド」(家の光協会刊、1980円税込み)が11月18日に発売されました。著者である富山の種もみ農家・伊東悠太郎さんと石川の米農家「たけもと農場」代表取締役の竹本彰吾さんにお話を聞きました。

【広報・調査部】

――本書の狙いは？

伊東さん 「事業承継が大事」ということは分かっているけれど、取り組みはまだ進んでいないと感じていました。本を出すことでもっと広く、強く訴えていきたいと考えています。

――内容について教えてください。

竹本さん 事業承継を終えた私と、現在進行形で取り組んでいる伊東さんの実体験を詰め込みました。「事業承継とは」から、後継者・親世代へのメッセージ、ぶち当たった悩みや葛藤もさらけだし、事業承継について網羅していると思います。

――どんな人に読んでもらいたいですか。

竹本さん ザ・後継者という人だけでなく、

『今日からはじめる農家の事業承継』発売

2人の農家が自身の体験をもとに執筆

「今日からはじめる農家の事業承継2万人の跡継ぎと考えた成功メソッド」(家の光協会刊、1980円税込み)が11月18日に発売されました。著者である富山の種もみ農家・伊東悠太郎さんと石川の米農家「たけもと農場」代表取締役の竹本彰吾さんにお話を聞きました。

――新規就農者にも読んでほしい。就農したばかりでも、いずれ渡す時がきます。その時に備えて知っておくことは有益です。

※インタビュー全編は全農ウィークリーWebサイトをご覧ください。

本の購入はこちら
▼(有)たけもと農場



10名様に書籍をプレゼント!

応募方法

件名に「農家の事業承継プレゼント」、本文に郵便番号、住所、氏名、年齢、所属JA、電話番号、JA全農ウィークリーの感想をご記入の上、メールでご応募ください。

応募先

JA全農ウィークリー
mail: zz_zk_zennohweekly@zennoh.or.jp

締め切り

令和4年12月16日(金) 23時59分

※プレゼントはJAグループに所属する方のみとさせていただきます。
※応募者多数の場合は抽選で当選者を決定いたします。また、当選の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。
※いただいた個人情報は、プレゼントの発送にのみ使用いたします。



竹本さん



伊東さん



農畜産物のブランド化戦略と直売所を

核とした「儲かる農業」の実現

多様な担い手を育成 耕畜連携、獣害対策も

JA京都は、府内JAの中でも最も管轄が広域で、恵まれた気候風土により「京みず菜」「丹波大納言小豆」「丹波くり」「京たんご梨」など、20品目のブランド京野菜と伝統ある多くの地域特産物を生産しています。また、畜産・酪農は、府内全域を管轄し「京の肉」「京都農協牛乳」のブランド商品を生産・販売しています。

JAでは、将来につながる京都農業の確立に向け、農業法人や集落営農組織・新規就農者など、多様な担い手と共に変化する消費動向に沿ったブランド京野菜・地域特産物を生産し、販売促進に努めています。

また、水田の有効活用と米価対策をあわせ、畜産・酪農に係る飼料高騰対策の

一環としてWCS（稲発酵粗飼料）の作付け拡大に取り組み、耕畜連携による持続可能な農畜産業を進めています。

営農継続支援対策としては、獣害による農産物被害が問題視されている中、地元住民や行政、JAグループ京都と連携して農業生産物への被害軽減に取り組んでいます。

農畜産物直売所を拠点に 品ぞろえ増やし販路拡大

JA京都農畜産物直売所「たわわ朝霧」は、2009年6月のオープン当初から、地産地消の拠点として消費者・生産者ら多くの方々に利用いただき、農家の所得拡大はもとより新規

就農者支援にもつながっています。同直売所では、京野菜・京都米・京の花・果物・加工品に加え、京の肉・京都農協牛乳といった農家が丹精込めて生産した商品を多く取りそろえ、店頭販売以外にもふるさと納税の返礼品としても販売しています。また、近年では「丹波くり」や「琴引メロン」「京

たんご梨」のダイレクトメール販売など店頭販売以外も拡大しています。21年度の出荷登録者数は、1379人で、売上金額は9億2563万円となりました。今後も、管内で生産される「安全・安心・新鮮」な農畜産物を多くの消費者へお届けするため、JAの総合力をもって生産者を応援していきます。



農畜産物直売所では特産「丹波くり」も人気



毎年好評の新米売り場

JA京都 (京都府)



概要	2022年3月31日現在
組合員数	5万1908人
職員数	539人
販売品取扱高	72億4千万円
購買品取扱高	38億5千万円
貯金残高	4606億7千万円
長期共済保有高	1兆2437億3千万円
主な農産物	京みず菜、伏見とうがらし、えびいも、丹波くりなど
	京のブランド産品だけでも約20品目

耕畜連携によるWCSの収穫作業



獣害対策で捕獲おりを設置



「みのるダイニング名古屋店」がオープン 東海地区のJAグループが誇る豊富な農畜産物を使用

全農は11月29日、直営飲食店舗「みのるダイニング名古屋店」を名古屋市のJRセントラルタワーズ「タワーズプラザレストラン街12階」に新規開業しました。

【フードマーケット事業部】

全農は「原産地表示」の意義を広く消費者に啓発し、外食産業における国産農畜産物の利用拡大を促進するため、そのモデルとなる国産食材100%(*)の飲

*国産では代替困難なコーヒー、香辛料など、一部原材料を除く

食店舗を全国で展開しています。

その22店舗目となる同店は、東海地区のJAグループが誇る豊富な農畜産物を使用し、素材の良さを生かしたグリル料理やフルーツパフェの専門店として開業します。「松阪牛」などの銘柄牛をシュラスコスタイルで焼き上げたグリルビーフや産直野菜のビュッフェ、旬の果物に濃厚なソフトクリームを組み合わせたフルーツパフェなど、ランチからカフェ・デ

イナータイムまで幅広く楽しめるメニューを提供します。



グリル料理やドリンク、フルーツパフェの一例

AKB48チーム8メンバーの「きりたんぼ」作りを配信 // 東北七新聞社協議会に協賛、「とうほく未来Genkiクッキング」supported by 全農

全農東北プロジェクトは11月12日、AKB48チーム8メンバーが「グリルみのるエスパル仙台店」の小齋料理長と一緒に、東北の食材を使用したオリジナル「きりたんぼ」料理にチャレンジする様子をSHOWROOMで配信しました。

【全農東北プロジェクト、フードマーケット事業部】

この企画は、東北七新聞社協議会が企画する「とうほく未来Genkiプロジェクト」に全農東北プロジェクトが協賛し、若い世代へ東北の魅力を配信するものです。参加したメンバーの清水麻璃亜さん(群馬県出身)、服部有菜さん(岐阜県出身)、高橋彩香さん(長野県出身)が感じる東北のイメージや思いを伝えながら、料理対決を行いました。「とうほく未来Genkiクッキングsupported by 全農」として配信しました。

食材の「きりたんぼ」は各自がご飯をこね、焼いたものを使用することで、自宅でも手軽に調理できるポイントを学びました。また、JAタウンでは開設記念企画として東北の20ショップで使用できるクーポンやサイン色紙が当たるキャンペーンを実施するなど、各々が連携して取り組みました。

AKB48チーム8メンバーが「きりたんぼ」料理に挑戦



みかんの里「JAありだ」

「有田みかん」は約450年の歴史を誇る温州ミカンのブランドです。和歌山県中部に位置する有田地方は、ミカンの甘さが決まる夏に雨が降りやすく、温暖な気候を生かして栽培している全国屈指の柑橘地帯です。有田川流域や海岸沿いの山々には石垣階段形のミカン畑が広がり、保温、排水、光の反射効果で高品質なミカンが育ちます。

こちらの商品は「有田みかん」の中から、さらに厳選された濃厚な味わいの高糖度ミカンです。ご家庭用としてはもちろん贈り物にもお薦めの逸品です。



高糖度みかん5kg(AQ一番 Sサイズ)……5200円(税込み)

ご注文はこちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com